

平成19年8月13日

奈良市農業委員会事務局
内線 3630

遊休農地・耕作放棄地の実態調査の実施について

1 調査目的

農産物の輸入増化による価格の低迷、担い手の減少や高齢化、遊休・耕作放棄地の増加等により農業経営は非常に厳しい状況である。

特に、農地の遊休化は雑草の繁茂や病害虫の発生などにより近隣農地への悪影響、農地の利活用の阻害原因となり農業諸施策の推進並びに農村景観上においても大きな問題である。農地は有限な資源であるとの観点から農地の無法地帯を生み出さない取組みが必要である。

今回、遊休農地や耕作放棄地の解消と発生防止対策解消するため、現状を把握し、農地の有効利用を進めるための基礎資料とする。

2 調査期間

平成19年8月20日から平成19年8月29日 午前9時から(土曜・日曜日を除く)

3 調査場所

飛鳥地区(白毫寺町・高畑町・紀寺町・南紀寺町1丁目～5丁目)
807筆 359,088㎡

4 調査概要

奈良市農業委員会では、今年度より年次計画により農業委員が自ら市内全域の遊休農地・耕作放棄地の実態調査を実施します。初年度は、調査モデル地区として、飛鳥地区の8町を対象農地として8日間にわたり調査するものです。

5 調査方法と今後の取り組み

現地で遊休農地・耕作放棄地の所在を特定し、地形及び圃場条件等の状況を調査し、把握した状況をもとに遊休農地・耕作放棄地台帳、所在図の作成を行い、今後、遊休農の対策地・耕作放棄地の有効活用に向けて適切な情報提供や助言指導を行い、より効果的な解消に向けた取組を支援推進します。